

第9回県政ひざづめ談議結果概要

○開催日時：平成21年9月4日 15：30～

○開催場所：甲府富士屋ホテル

〔司会者〕

それでは『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

まず始めに横内知事からあいさつをいたします。

〔知事〕

改めまして、皆さんこんにちは。

皆さんそれぞれお忙しいところお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。それぞれ皆様方には中小企業団体中央会の女性部として地域地域で中心になってご活躍になっているということでありまして、また県政にも協力をしていただいているということに心からお礼を申し上げたいと思います。

戦後最悪の不況という中で、本県の中小企業の状況は大変厳しいものがあるわけでありまして。多少一時に比べれば良くなったとはいいながらも、依然として7、8割方の皆さんが大変不況にあえいでいるという状況でありまして、県としても、我々としてもそこが一番頭の痛いところでありまして。しかしとりあえずのところはそういう非常に暗い状況にあっても、長い目で見ますと山梨県の場合は明るい材料がたくさんあるわけでありまして、一つにはリニア中央新幹線があと16年後、2025年には東京-名古屋間が開通をするというのは大体間違いがないという状況になってきたわけでありまして。また、二つ目には中部横断自動車道、増穂から静岡県に行く間もいよいよ全線にわたって工事が本格的に始まることになりまして、8年後には開通をしていくだろうと。政権交代で民主党が道路に熱心じゃないというようなことを言う動きもありますけれども、民主党の国会議員の先生方と話をしておりますけれども、必要なものは造るんだということをはっきり言っておりますし、これは大丈夫だろうというふうに思っております。8年後には東海道へ直接つながるということになるだろうというふうに思います。

また富士山の世界文化遺産を今一生懸命やっているわけでありましてけれども、今日ユネスコの専門家、実際文化遺産の審査をする専門家が5人やってまいりまして、5人のうち4人は女性でして、女性のそれぞれの国のトップクラスの考古学者であったり、あるいは文化人類学者とか、そういう学者さんですけれども。その方たちに富士山のいろんなものを今見てもらっているわけで、私も午前中そのお付き合いをしてきたんですけれどもね。印象として、これは素晴らしいと。大変にいい印象を持っていただいているようでありまして、数年後には世界文化遺産に登録されるんだろうというふうに思っております。

さらには、山梨大学が燃料電池を研究をすると。これはもう日本だけではなく世界的な研究のセンターになっているわけでありまして、国からの支援があって立派な研究所がこの間出来て、70億円の研究費で本格的な研究が始まる訳であります。これが世界化をしてくると、山梨県は燃料電池の一つのセンターとして大きな発展のきっかけがでてくるだ

ろうというふうに思います。

長い目で見ると明るい材料がたくさんあるわけでありまして、そういうことを明るい展望として持ちながら、今この厳しい時期を中小企業の皆さんと一緒に乗り切っていきたいというふうに思っているところであります。

そこで今日のこの『ひざづめ談議』でありますけれども、これはざっくばらんに何でも県政についてお気付きのことをお話をいただくということでもあります。中小企業の問題、その他ですね、何でも結構でありますので、こうしたらいい、ああしたらいいという普段お考えになっていることを是非ざっくばらんにお話をいただければありがたいというふうに思っております。

1時間という限られた時間ではありますけれども、決していろいろと遠慮したりしないで、率直にご意見をお聞かせをいただきたいというふうに思います。今日は本当にありがとうございました。

〔司会者〕

それでは、ここで本日同席をしております県の担当者を紹介させていただきます。商工団体の指導等を担当しております、清水商工企画課長です。

〔清水 商工企画課長〕

清水でございます。よろしくお願いいたします。

〔司会者〕

続きまして、中小企業の経営革新などを支援しております、尾崎産業支援課長です。

〔尾崎 産業支援課長〕

尾崎でございます。

〔司会者〕

それでは早速『ひざづめ談議』を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

〔知事〕

今日はここで会議があったんですね。中小企業会館なんかではやらないんですか。ああいうところがあるのに。

〔参加者〕

中小企業会館でもしますけれども、あそこが空いてない時があるんです。

〔知事〕

空いてない時がね。そうですか。今日はレディース中央会の何か定期会合みたいなものですね。大体毎月1回ぐらい集まるんですか。

[参加者]

集まります。今日は、全国フォーラムが今度滋賀のほうでありますので、そのことも含めて集まりました。

[知事]

そうですね。この名簿を拝見してもそうそうたるメンバーでね。本当に山梨を動かしているような方々ばかりだと・・・。(笑)

そうですね。まあしかし、皆さん自身がこうやって企業経営もやっておられてずいぶんご苦労が多いだろうと思いますね。

ということで、じゃあ一つ何でもいいですからお話をお聞かせいただきたいと思います。会長さんのほうから。

[参加者]

私ども中央会女性部は、年に1度県内の女性が一堂に集まりまして、県大会を開催しております。事業を通して同じ立場の女性同士が意見や情報交換をしております。そして悩みなど共有して解決をしております。それによってネットワークが広がると共に、強力な励みになっております。

[知事]

なるほどね。毎年いつ頃おやりになるんですか。

[参加者]

3月のおひな祭りの頃にやっております。

[知事]

そうですね。

[参加者]

是非そのご支援を・・・。

[知事]

ご支援というのは・・・。(笑)

[参加者]

ご支援もいろいろありますので大きい範囲で見させていただきまして・・・。いろいろいただけたら私どもも運営、また、それと共に講演者が呼べますので・・・。

[知事]

そういうご支援、物心両面ですか。(笑)

〔参加者〕

はい、両面で・・・。三面でも四面でも大丈夫でございますから、みんな中央会の女性が受け止めますから、しっかり。よろしく願いいたします。

〔知事〕

会長さんに話せば・・・。(笑)

まあ分かりました。いずれにしてもどういう形であれ、皆さんが懸命に取り組まれていることは大変いいことだと思いますし、私たちもできることはもちろんやりたいと思うんですが・・・。分かりました。

〔参加者〕

もうこの会も11年続いているんです。20年、30年と続くことを・・・。

〔知事〕

本当にそのとおりですね。毎年どのぐらい集まりますか。

〔参加者〕

その年によっても違いますけれども、大体200人から集まりますから・・・。

〔知事〕

いいことだと思うんですね。ああいうものもやりようがあって、通常は大体大会をやって、セレモニーをやって、そして東京から有名な先生でも呼んできて話を聞いてというようなことで終わるんですけれども、それだけじゃあつまらないよね。やっぱりみんなそれぞれ事業を営んでいるわけですから、お互いの情報交換、情報交流をやってね、意見交換を大いにやらなければだめですよ。それが大事なことだと思います。せっかく集まるんですからね。いろいろ工夫をしておられると思いますが、是非がんばってください。あといかがですか。

〔参加者〕

私は西銀座商店街で宝飾眼鏡等の販売をさせていただいております。

今日は、横内知事と魅力ある地域づくりの方策とか、地域が抱えている課題について対談できるということで、とても楽しみにしてまいりました。よろしく願いいたします。

中央商店街も郊外への大型商業施設の立地や春日通りのオギノの撤退によりまして客足も大分減りまして、大変な問題を抱えている訳なんですけども、問題ばかりではなくて、それに対して女性の目線でどういうふうに変えていけばいいかということで私なりに考えてみました。空き店舗もたくさんあることですので、その空き店舗を利用いたしまして地場産業ですね、物産展を取り入れたり、あと地場の農産物とかを利用いたしましてお惣菜を販売するような、オギノの撤退によりまして食生活の食材を求めるステーションが大分少なくなりまして、そういう点も考え合わせて中央会を通して組合連携による出店はどうかなということで提案させていただきたいと思います。

あと、中心部の中央公園です。そこが唯一の緑地ということで、避難地にもなっておるわけですけど、現状といたしましては、まあ申し上げていいのかどうか分かりませんが、浮浪者の・・・。

[知事]

ホームレスさんだね、何人か・・・。

[参加者]

はい、そうですね。散歩する方でも、道行く方でもちょっと怖くて通れないというような現状で、公園自体が生かされていないような感じがありますので、知事といたしましてはそういう状況を踏まえてどういう・・・。

[知事]

全くね。中央公園は本当、私もいつも頭にあるんですよ。あれが有効利用できたらいいと思うんですよ。まあ公園としても悪くはないけれども、しかしただあの公園があのままじゃもったいないですよ。例えば駐車場が足りなければ駐車場を併設してもいいと思いますけれども、それが難しければ、あそこに土日にはテントが張られて農産物を売っていたりとかですね、田舎には女性のグループがあってジャムを作ったり味噌を造ったりやっていますよね。そういう人たちと話をしていると、一生懸命いい物を作るんだけど売る所がないんですよ。売る所を是非紹介してもらいたいという人が多いですよ。それからいわゆるバザーなんかやりましたね。みんなそういう余った物というか、必要な物を持ち寄って販売をして、そしてそれを福祉施設に寄附するとか、そういう活動を活発にしているグループというのはたくさんあって、そういう人たちはみんなやっぱりそういう物を販売する場所というものを探しているんですよ。それは中心街の空き店舗みたいなものを使ってもいいんですけど、ああいう所に何か土日出せればね、そういうふうにしてもいいじゃないですかね。

[参加者]

ただ既存の商店との絡み合いがありまして・・・。

[知事]

それはありますね。あそこで洋服屋でも出されちゃったら全く困るかもしれませんね。しかし、そういうようなものに使ったっていいと思うんです。ちょっと行って、何かちょっとビールでも飲んでいたりとか、ワインをちょっと飲んでいたりとか、そしていろんな大根だ何かも売っていたりとか。いろいろ使い道があると思うんですよ。まあそういうことも考えなければいけないですね。

[参加者]

県にも是非協力をいただきまして、有効利用を・・・。

[知事]

中央商店街という場所は、西銀座通り、春日モールの辺りですよね。一番中心の・・・。
春日モールは、土日に何かしていますか。

[参加者]

ナイトバザールを第二土曜日に行っております。

[知事]

ナイトバザール・・・、ああそうですか。

[参加者]

6、7年前から行っていて、第二土曜日には大勢のお客様を得ております。

[知事]

毎月の第二土曜日で。

[参加者]

はい、そうです。そして加盟店は割引をしていますので、大勢のお客様に来ていただいております。当店でももちろん協賛させていただいております。

[知事]

そうですか。そういうイベント的なものが常時何かどうか開かれているといいですね。

[参加者]

そうですね。やっぱり継続は力なりで浸透しつつあります。

[知事]

そうです。それにそういうことをやれば既存商店街に影響が及ぶということもあるかもしれませんが、しかし人が来ることが大切ですよ。来ればやっぱりその周辺を回ってみたいとかということがありますからね。まあ中心市街地の活性化は大事なことで、岡島もいよいよ本格的に今年から来年にかけて改修をするということのようですし、いろいろとありますのでね、是非、がんばってやっていただきたいと思うんですね。

[参加者]

よろしくをお願いします。

[知事]

我々もできるだけのことをやっていかなければいけないと思っておりますので・・・。分かりました。中央公園の利用でね・・・。そうか、あれ検察庁が建て替えるから、一時期仮設の庁舎に使わせてくれなんて言っているようだから、もしそういうことがあると2、3

年は使えないかもしれませんね。2、3年、1、2年かな。

まあ、それはともかくとして、よく分かりました。ではどうぞ。

〔参加者〕

私は運送業をやっております。知事さんも先日はソムリエ・ドヌールにご就任されましておめでとうございます。

新聞でそういうものを読ませていただいております、知事さんが懸命に活動をしていることはよく私も耳にしたり目にしております。

さて、ワインのことなんですが、海外では水よりもワインのほうが安いということなんですが、日本のワインは一本1,000円か1,500円という金額ですよ。毎日それを飲むことができないという状況で、ビールを一缶飲む程度、300円ぐらいのものがあれば、毎日飲むことができるんじゃないかなと、私は個人的に思うんですけど……。そういうワインが一箱24本とか30本入ったものが売りに出るというような状況になると、皆さんが1カ月に一箱ぐらいを買って飲もうという状況にもなってくるかと思えます。

また、日本では各県が地場の物をいろいろな所でアピールしているんですけど、世界中には女性の方がすごく活躍していますので、知事さんも女性の報道官をお入れいただいて、あっちこちに出向いて地場のPRなど、いろんなことを発信するようなことをすると、ワインをはじめとする地場産業の振興につながるのではないかと思います。是非そういうところで女性を使ってやっていただければ……。

〔知事〕

ワインが確かにもう少し安ければいいですよ。ちょっとまだ高くてですね、1本1,000円のワインもありますし、1,500円ぐらい出せば、甲州ワインであればかなりいい物が出ますけどね。缶ワインというのはあるですよ。ちょうどビールと同じような缶ワインというのがあって、300ミリリッターで、500円なんですよ。どうもビールと同じ値段というわけにはいかなくて。これはモンデ酒造さんが造りましてね。アルミ缶なんですよ。従来アルミ缶はワインを入れると腐食しましてね、うまくないと言われていたんですけども、しかしそれを特殊なコーティングをやりましてね、特許を取って、そして売り出していますけどね。だから中央線なんかでも車内販売で売っておりますがね。まああれなんかいいなと思えますが、しかしやっぱり500円ですね。だから気軽にというわけには余りいかないということで難しいんですが。しかし日本のワインの質が非常においしくなってきましたから、安い1,000円のワインでもかつての1,500円ぐらいの味がするぐらいになってきているということで、段々安くていいものが出てくるだろうと思えますね。これはワイナリーの皆さんに期待をしなければいけないことですね。

女性をおおいに活用してというのも私も心がけているところですけども、こういう若手の女性もいるんですけど、報道官をね……。熊本県知事さん、この人は非常に面白い経歴を持った人で、高等学校を卒業してまず農協に入りましてね、農協で何年かやって、そのうちに発奮して勉強を始めましてね、そしてどこか留学したんだな。そして最後は東大教授になりましたけどね。その人が今熊本県知事なっていますけれども、この間何か女性大使を……。あれはタレントだよな。

〔尾崎 産業支援課長〕

はい。タレントのスザンヌさん。

〔知事〕

スザンヌさんか、そうそう。熊本県出身のタレントを使ってやっているようですけれども。まあそうですね、報道官的な、そういうことも確かに考えなきゃいけないと思っ
ているんですが、まだ県庁には女性が少ないんですね。しかし最近は事務系を採用しても半分は女性ですから、段々優秀な女性が増えてくるだろうと思いますね。だから報道官とい
うんじゃないで、広報関係なんていうのは女性の鋭い感性というか、生活感覚というか、そ
ういうものが必要ですからね。報道関係、広報関係ですね、女性をおおいに使っていかな
ければいけないと思いますね。ご意見として承っておきます。

この間香港に行きましたら、香港の向こうの行政の人たちと話をするとう女性が多いん
ですね。総領事に「ここは女性が行政のお役人さんに多いですね」と言ったら、「いや優
秀なのはみんな女性ですよ」と。「香港の行政というものは女性でもっているんですよ」
と言うんですね。あそこは商売の町ですから、男性は商売のほうに行っちゃうんだね。夫婦
共稼ぎなんですけども、女性が行政方面に行くんですね。それがやっぱり非常にいいよう
ですね。

〔参加者〕

よろしいですか。昨年卓越した技能者ということで「やまなしの名工」として表彰して
いたただきまして・・・。

〔知事〕

ああ、名工ね。

〔参加者〕

はい。その時思ったんですけども、その中に女性が私だけだったんです。どうしてかな
と思ったんですけども、中にはやはり女性で技術向上を図っている方がいっぱいいるん
です。できたらもう少し女性のほうに目を開いていただければなと思います。

〔知事〕

ヘアサロンですね。美容師さんとして・・・。

〔参加者〕

はい。着付けのほうを今、主に・・・。

〔知事〕

着付けのほうで「やまなしの名工」をね・・・。そうですね。素晴らしいことですね。

〔参加者〕

やはり山梨の文化の一つを担っていくには着付けのほうも必要かなと思いますし、これ日本の文化の一つですよ、お着物というのは。国の民族衣装というのが自分で着れないのは日本だけなんです。ですからもう少しその点を広げてもらうのと、救ってもらえれば、勉強している方たちも張り合いかなと思ひまして。

〔知事〕

今若い女性で着物を自分で着れる人というのは多くはないですかね。

〔参加者〕

多分ないです。

〔知事〕

いないですか。(笑) そうですか。

〔参加者〕

そうですね。できるだけそういう若い人に勉強していただきたいなと思って心がけてはいるんですけど、なかなか着物というものに目を開いてくれる方が少ないんですね。山梨にも地場産業の一つとして紬なんかありますよね。そういうものをもっともっと売り出してもらうこと、結構いい品物なんですね、触ってみると。そういうものからしていくと、やはり女性の着物に対する目も開かれてくるんじゃないのかなと思います。

今婚礼していてもドレスが多くなってしまっ。でもまた改めて見ると日本の良さというものがありますよね。甲府なんかは武田神社さんがあったり、一宮のほうに行くと一宮神社が、立派なものがあるじゃないですか。できればああいう所で和式で結婚式を挙げてもらおうと、また新しい目が開けてくるんじゃないのかなと。今、一宮神社さんのほうでも挙式ができるように、そこで披露宴までできるようにという形を考えて下さっているみたい。山梨の文化って本当にいっぱいあるんですね、いい所が。その中の一つとして和服のほうも開けてもらおうと、技術的にも結構優秀な方がいっぱいいらっしゃるの。やはり名工も女性のほうを見ていただければと思います。張り合いになりますし、是非よろしく願ひします。

〔司会者〕

この間、県政番組にもご登場いただきました。

〔知事〕

着付け教室なんておやりになっているんでしょうけれども、やっぱり若い女性は、最近余りそういう着付け教室なんかには来ないですか。

〔参加者〕

美容学校は若い人が多いんですけども、浴衣の着付けから教えますと、「先生、今年は

自分で着ました」という子も多いですし、中には男性もおります。

[知事]

京都市長が、これ面白い人でね、この人は着物を着ているんですよ。四六時中着物を着ているんですね。執務中も何もかも、着物を着ているんです。市長が言うには、京都というのは西陣、友禅ですよ。ところがその西陣、友禅がピークのね、ピークがいつか知らないけど、ピークの3%になっちゃったんです、売上げがね。そしてその西陣の素晴らしい名工と言われる人がコンビニとかそういう所に勤めていると言うんですよ。こんなにもったいないことがあるかということで、少しでもそういうものを振興するように四六時中着物を着ているんですと。なかなか大したもんだなと思って、私も、しかし四六時中着物を着るわけにもなかなかいかないんですけども・・・。

[参加者]

是非新年会か何かにお召しになって、お着付けはさせていただきますから・・・。(笑)

[知事]

そうですね。まあしかし大変なことですね。

[参加者]

私は洋菓子販売の会社をしていて、今直営店10店舗ぐらい担当しています。

[知事]

10店舗ね。大したもんですね。

[参加者]

今お母さんたちが子育て支援のカード(子育て応援カード)を大変使って下さいまして、大体一つのお店で1カ月に、その券提出での値引きの額が4千円から5千円になります。

[知事]

値引きの額・・・。

[参加者]

まあおやつ菓子ですから1個100円とか、そういうもののお買い物の中の5%で、大体子育て支援の値引きが4千円から5千円に一つの店でなるぐらい皆さん結構使っています。

[知事]

その券というのはどういう、どこが発行している券ですか。

[司会者]

子育て支援の企業を募って・・・。

〔参加者〕

はい、それに入っていて、それで私が担当している直営店は10店舗それを使えるお店になっていまして、それでその5%の値引きなんですけど、大体毎月5千円ぐらいは一つのお店で使ってくれて、結構皆さんご利用してますから、引き続きやっていただくとありがたいかなと思います。

〔知事〕

そうですね。大事なことですよね。

〔参加者〕

あと一宮の金川の森に、今年孫が1歳半ぐらいになったので、東京から来たんでちょっと連れていきましたら、中が本当に素晴らしくて、自然があつて、川が流れていて、小さい子も小学生ぐらいの子も、もっと大きい方も楽しめる。そして林もありまして、何か本当に癒される空間で、とってもよく整備がされていまして。改めて見直したんですけど、あそこなんかインターの近くですし、難しいことかとは思いますが、1年に10日間ぐらい蛍を放したり、冬なんかイルミネーションなんかしたら、やっぱりもうちょっと違う年齢層も行けると思いますが、あと観光なんかでも・・・あの森は素晴らしいなと・・・。

〔知事〕

余り知られていないんですよ。あれは県の林務部、まあ森林関係ですね。外郭団体が管理をしているものですから、余りPRしないんですよ。行ってみると結構広いですよ。

〔参加者〕

とっても広くて整備されていて、とっても素晴らしくて驚いちゃいました。うちの孫も喜んで、次の日もまた行きたいなんて言って連れていったんですけど・・・

〔知事〕

小さいお子さんを育てているご両親なんか行けばいいんですよ。芝生で遊ばせてね。

〔参加者〕

大勢みえていますよ。芝生もありますし、川遊びもできますし。孫がまだいなかった時は興味もなかったんですけど、今年初めて使わせていただいて、是非あのまま維持していただきたいなと思います。

〔知事〕

もちろん維持するんですけど、ただあれができて10何年か経ちましてね、ちょっと遊具が古くなってきたんですよ。遊具なんか、例えば木の柵なんかでも少し腐ってきたりしましてね、子どもが遊んでトゲなんか刺さったりとか、そういう心配もあつたりする

ものですから、中の遊具とか、そういうものを改修をするということで、まあ2、3年掛けてやるんですけどね。だからまた2、3年後には一段といいものになるというふうに思っていますけどね。

〔参加者〕

楽しみにしています。

〔知事〕

そうですね。確かにいろいろと工夫をね、その虫を放ってみたり、いろいろと工夫すればいいんですけども・・・。ただあそこはやっぱり保安林だということもあったり、いろいろあってなかなかできない状況ですがね。まあしかしそれは考えなければいけませんね。

〔参加者〕

私も女性部も下草刈りには年に1回、みんなで協力しています。皆さんで行っているんです。親会が陣頭指揮で中小企業の女性部が・・・。

〔知事〕

そうですか。それはありがとうございます。まあもうちょっと使い勝手がよくなると、また注目されるようなPRもやろうと思いますね。

いかがでございましょうかね。

〔参加者〕

中小企業の中央会を通しまして業界の組合女性部の活動支援を行っていただいていることは本当に、この経済環境悪化の中で本当にありがたく、励みになっております。是非今後共続けていただきたいと思います。

〔知事〕

支援というのは幾らぐらいの・・・。

〔清水 商工企画課長〕

女性の活動に年間大体40万か50万円ぐらい・・・。

〔参加者〕

苦しい私たちを何とかお勉強に導いていただいたり、活動で助けていただいております。本当にありがとうございます。

〔参加者〕

これが一つの組合ばかりでなくて、皆さんで仲良く使わなくちゃならないので、なるべく・・・。(笑)

〔知事〕

分かりました。はいどうぞ。

〔参加者〕

日頃トップセールスとしての横内知事のご活躍は拝見させていただいております。

そんな中で私、2カ月ほど前スカイラークの関係で女性だけのセミナーというのを東京新宿でさせていただきました。そしたら30名ばかりの独身女性ばかりだったんですが、その中で『週末は山梨にいます』というキャッチフレーズをほとんどの方がご存知でした。とてもそのキャッチが魅力的だというご意見をいただいて嬉しくもあったんですが、ただその中で週末山梨に行って何かできるの、という話になったんですね。やっぱり山梨というのは東京からも近いし、日帰りで来られる魅力は大きいと思うんです。私が思うのに、やはり山梨だからできるというものを提案、提供しないと。今の人たちってご自由にこの時間を使って下さい、どうぞご自由に山梨にお越し下さいといっても、結局どうやって過ごしていいのかが分からないという状況にあるようです。私は、いろいろな意味で山梨は育てるところでは最も適している所だと思っています。

例えばおいしい桃ができます。できた桃を持っていくのもいいんですが、それを実際に作ってみるということです。やっぱり手を掛け、そして手を掛けたところで収穫ができる、そしてそれが味わえるというような、週末山梨に来て、継続的に山梨の良さを感じていただけるような提案を、そのキャッチのあとにしてもらえると、もっともっと魅力的な山梨を体験してもらえないかと思うんです。もちろんワインもそうですよね。ワインを造る工程はとても魅力的だし、その造ったワインを飲めるという、ヴィンテージも飲み、そしてヴィンテージから1年、2年、3年と樽出しをすとかというのも勝沼のほうではできるようなので、ただその方法や入り口がなかなか皆さんには開示できていないようなんです。

〔知事〕

どうしたらいいかですね。どうしたらそれができるかということがね。

〔参加者〕

そうですね。いいものを持っているだけに、もう少し分かりやすい企画を打ち出してみたらいいのではないかと思います。

〔知事〕

プレゼンテーションをね、出していくようにしなければいけませんね。今度やまなし観光推進機構というのができて、これがやっている仕事の一つに着地型観光なんていうのがあります。要するに通常旅行社が企画するようなそういう旅行ではなくて、地元がこういう楽しみがあります、こういう面白いことがありますというのを、東京の皆さんに発信をすると。そういう着地型観光の企画を市町村とともに、今一生懸命いろいろやっているところなんです。いろいろ面白い、例えばついこの間も富士川下りなんていって、富士川だって結構流れの緩やかな所があるから、ボートか何かで、カヌーか何かで下れば下れるん

ですよ。そういうようなことをやったりとか、いろんなことを今やろうとしているわけですが、おっしゃるようにワイン造り、ワイン用のぶどうを育てて、そしてそれでワインを造っていくなんていうこともありますし、いろいろあると思うんですね。ただそれを、東京の人たちに発信しなければいけませんね、プレゼンテーションね。インターネットには全部そういうのが入っているわけですが、なかなかインターネットだけ見るということはないわけで、いろいろな方法で発信をしていかなきゃいけないと思いますね。それは非常に大事なことだというふうに思いますね。

『週末は山梨にいます』というのは、実は30代の女性よりも、むしろ40代・50代、50代・60代に近い、そのぐらいの人たちを考えていたんです。しかし30代の方もそういうことを知っているというのは大変心強いですよ。今度は20代・30代の女性向けのPRをこの秋東京で始めるんですけども。これは『私の人生にビタミンやまなし』と言うんですけどね。まあ考えてみると、山梨というのは桃、ぶどうですね。やっぱり果物というのは女性が好きだし、ワインも非常にブームだし、ジュエリーはあるし、それから自然環境はいいし、女性にいいんじゃないかということで、アラサー、アラフォーの方々を大いにPRをしようというふうに。その世代の女性というのはロコミのいわゆる電波力というのはものすごく強いんですね。だからたちまち広がっていくと。ロコミで広がる情報というのは非常に強くて、単にテレビかなんかで聞いたなんていうのではなくて、特定の人から話を聞いたりというのは非常に効果があるらしくて、そんなことで今度は女性にターゲットを絞ったPRを、この秋東京で・・・例えば中央線の橙色の電車、今大体1セットが12両ですけども、その12両の車両に全部、表にも裏にも中にも、全部山梨の広告で埋め尽くされている電車が走るとか、そんなようなことをやるわけですがね。そういうことを今考えているんですが、いずれにしてもいろいろな提案を確かにしていかなければいけないというふうに思いますね。何かそういう面白い提案があれば是非お願いしたいと思いますね。

いかがですか。

〔参加者〕

私は今年の2月定年退職しました。山梨市に実家があるんですけど、父や母が小さい商店をやっているものですから、今はその家業を手伝っています。年寄りが多いということで、移動販売をして商品を買ってもらおうようなことをしているんです。一人で生活しているので、車はもちろん運転できない。それと交通機関も日に1回往復ぐらいのことなので、若い人たちはみんな出ていってしまって、なかなか年寄りが買い物に行けるということが少ない。この前も地震なんかありましたね。地震のあった時なんかはどうするんだろうと。ちょっと自分自身も不安になってしまって、こういう年寄りの人たちをいかに地元の人たちがうまく協力して助けてあげられるか、いい方法があったらなんていつも商売しながら思うんですけど。

〔知事〕

そうですね。まあ車が運転できるうちは年寄りもいいんでしょうけども、できなくなると大変ですよ。とたんに孤立しちゃいますよね。だからそういう時に移動販売をやっ

おられれば、事実上やっぱりいろいろな面倒をみたり、何したり、非常に地域のお年寄りから頼りにされるでしょうね。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

本当にそうだと思いますね。まあ大事なことですよね。ご商売というよりも、本当に社会福祉みたいなもんですね。

〔参加者〕

そうですね。それでやっぱりお店がみんな廃業に追いやられてしまって、今ほとんどないんです。やっぱり大型店舗に若い人がどんどん行ってしまって、年寄りは取り残されてしまったという、そんな感じですね。

〔知事〕

地震の時というのは大変で、少し若い人が残っていたりするといわゆる地域防災、自主防災組織みたいなものがありましてね。山梨県は自主防災組織というものの組織率が全国でも2番目か3番目に高いんですけども、それは自治会が事実上そういう機能を果たしたりしているものが多いんです。あらかじめあそこにおじいちゃんがいるよと、ここにおばあちゃんがいるよと、地震が来た時にはみんなで助けなきゃねということは、お互いに普段相談をし合っているんですね。だからそういう時にはぱっと飛んで行ってそういう人たちを救い出すというようなことは、自主防災組織がしっかりしていればできるんですが、ただもっとすごい田舎の若い人がいないような所というのは、本当に困るんですよね。

〔参加者〕

いてもやっぱり私たちぐらい、60代とか70代の人たちが・・・。

〔知事〕

自分で逃げるのが精一杯ですね。

〔参加者〕

だから本当に30代、40代の人はいないですよ。自分たちも精一杯なのにね。そういうことを考えると不安ですよ。

〔知事〕

不安でね。そうなんです。まずは建物を、住宅を耐震化できればいいんですけども、住宅が大きいですからね、また。せめて普段そこに住いをしている居間だけでも耐震化して、地震が来てもそこだけは大丈夫だということにはできるんですね。それらに対する県の補助はあるんですよ。まず地震が来た時に圧死しないように気を付ける

ことが第一ですよ。阪神淡路大震災でも死んだ人の8割は圧死ですからね。だから家がつぶれたり、あるいはタンスが倒れてきたりとか、そういうものを防ぐことが第一なんですよね。そのことが第一で、二番目には、つぶれた住宅から助けた人は8割が消防だとかそういうんじゃないくて、地域の人が助けているんですよ。だからやっぱり地域の組織がしっかりして、どこそこにどういう人がいるということをみんなお互いに把握しあっているというのが非常に大事なんですよね。どうぞ。

[参加者]

知事さん、シャッター通りはいらしたことございますか。

[知事]

シャッター通りですか。あちこち伺っておりますね。

[参加者]

また中央の話になりますけど、あの通りに空いたお店が結構あるんですね、シャッターが閉まっているわけです。そのお店を幅1間か1間半ぐらいのお店を幾つか持っている方がいるんですけども、入りたい若者がいるわけですね、商売やりたいんだと。やりたいんだけれども資本金ですか、毎月の家賃払って、商品仕入れてとなると、やっぱり最低でも100万からのお金があると。借りたいんだけど、意欲はすごく持っているんだけど、いざ借りる段になると、貸す側もある程度のお金欲しいわけですね。だからその辺で、そういう意欲を持った若い人に何か援助、全額でなくてもできないかなと思うんですね。

[知事]

確かにね。まあ中心街の商店街で活性化が進まないというのはそこなんですよね、一番問題なのが。結局年を取ってきて店を閉めちゃうと。跡取りもいないし、シャッターを閉めてしまうと。そういう人が安く貸してやれば、若い人で甲府の中心街で商売をやりたい人はなんぼでもいるんですよ。安ければやるんですよ。ところが安く貸さないんですよ。そういうふうにシャッター閉めちゃった人というのは大体後ろにでっかい家とか、アパートを持っているとか、駐車場を持っている。別にわざわざ自分が今までやっていた店を、わざわざ訳の分からない人に貸す必要なんかないやと。普段は困らないんだということなんです。だから安く貸さないんですよ、結局。

[参加者]

でも割合に安い値段で出しているらしいんですけどね。

[知事]

出しているけども若い人が入らない。

[参加者]

入らないんですね。それだけ対応ができないんじゃないかと……。

[知事]

甲府なんかでも地価はピークの10分の1に下がっているでしょう。ところが家賃は10分の1に下がっているかというと下がっていないんですね。精々5割かそこらという。

[参加者]

固定資産税が、知事さんすごいらしいんですよ。

[知事]

まあまあ、それは・・・。(笑)

固定資産税はこれは払ってもらわなきゃしょうがないですね。甲府市も都市計画税なんていうのはまけていますよね。だから本当はそういうお店の人たちが、もう自分は店を閉めたんだから、若い人に安く貸してやろうと。そうすれば商店街が活性化するんだしと、こういう思いで安く若い人に貸してやればもう入れ替わってくるんですね。ところがなかなかそれをやらないんです。結局それができないからどこの町でも何をやっているかという再開発といましてね、再開発してビルを建ててそしてやっているわけです。今おっしゃった固定資産税が高いと言うんだけど、経済学者に理屈を言わせると、もっと思い切って高くしろと言うんですよ。固定資産税をすごく高くしろと。高くすればもうとてもじゃないけど持ちきれなくなって、安く売るか、あるいは貸すじゃないかと、こういうふうにする人もいますよね。だけどそんなことできるわけないですからね。非常に難しいところです。まあ、そういう所に入る若い人に補助を出すということはやってはいるんだよね。

[清水 商工企画課長]

少額ではございますけれど制度がございますので・・・。

[参加者]

会議所でもかなり力を入れているんですが、財源にやっぱり限りが・・・。

そういえば、観光客に、甲府の商店街、繁華街に行きたいんだけど道を教えてくれと言われて困ることがあるんですよ。

[知事]

どこを繁華街と言ったらいいのか・・・。

[参加者]

繁華街ってどこを・・・。駅前に行きなさいというわけにもいけませんよね。結局はやっぱり中心街が・・・。

[知事]

春日モールへ・・・、いいと思うけど、春日モールもシャッター通りですよ。

〔参加者〕

銀座もね、だめだしね。甲府の銀座もね……。でもこの間新聞で、夜ご商売している人がお昼にレストランとしてお貸ししているという、何か出ていましたよ、山梨県のね。いいことだと思いましたね。シャッターを閉めて夜だけ開くより、昼間はレストランとして人に貸しているなんていう……。

〔知事〕

甲府で長くご商売をやっていた方々は、シャッターを閉めてしまわないで何とか若い人に貸してやってもらいたいですね、安くね。それがやっぱり町を活性化するわけですか……。

〔参加者〕

でも皆さん中心の方々が結束して、中心の桜座ですか、そこも立ち上げたりして一生懸命やっているんですけど、何にしても人が来ないことには始まらないものですから。何かみんなでがんばっていききたいなどは思っているんですけどね。

〔知事〕

桜座はみんな一生懸命やっていいですよ。田中泯さんなんていう人が一生懸命応援してやっていますよね。

あと、いかがでしょうかね。後ろのほうの……。

〔参加者〕

今、人が集まらないという話が出たんですけれども、全国で年に1回新しいヘアスタイル、新しい着付けのスタイルというものを発表しているトップマスターズというのがあるんですけど、今年2月に文化ホールでさせていただいたんです。それとほかに全国大会というコンクールがあるんですね。しかし、山梨県には4千、5千の人を集客する施設がない。私たち毎年各県を歩いているんですけど、必ず駅の近くに大きな施設があります。今回文化ホールに3千ぐらいの人数を入れたんですけども、とても交通が不便だったり、大変な部分がありました。また、関東大会を2年ぐらい前に小瀬のスポーツ公園の体育館を借りてさせていただいたんですけど、そこもやっぱり交通が不便ということもありまして、本当に商店街が空洞化とか、いろんな細かい問題が出ている中で申し上げづらいんですけども、できればそのぐらいの大きな建物が山梨県にもあれば全国から人を呼んで、何かそういう大会とか、発表会とかというものを行うことで観光や産業の活性化にも繋がるんじゃないかなというふうに思っています。

〔知事〕

ベルクラシックとか、この昇仙閣ですね、などという所は、まあしかし3千人、4千人入るといえるのはないですね。

〔参加者〕

とても無理なんです。我々美容組合のほうも全国大会を是非山梨県でやりたいという希望があるんですけども・・・。

〔知事〕

美容の大会となると、やっぱり実際の実技をやるわけですね。

〔参加者〕

はい。

〔知事〕

だからやっぱり相当広い面積が・・・。

〔参加者〕

いろんな部門がありまして、カットから、もちろん着付けもそうなんですけど、いろいろあるんで大勢集まるんですよ。山梨で開催したくてもその大きな施設がないというところが、組合サイドとしてもちょっと悩みの種で・・・。

〔知事〕

アイメッセはずいぶん広いんですけどね。

〔参加者〕

そうですね。あそこまで行くということが、やっぱりちょっと。全国から来た、甲府駅に下りた方がどういうふうにして行くかということも考えると、やっぱり遠くというのがちょっとネックですよ。

〔知事〕

甲府駅の近くにそういう大きな・・・それは作り付けの椅子というんじゃなくて、フロアですか、大きい。広いフロアということなんじゃないかな。

〔参加者〕

私たちの希望としたら体育館みたいなものでも文化ホールみたいなものでもいいんですけど、できれば全部揃っている施設があれば一番ありがたいんですけども。全国見ても、ほとんど大きな建物があるんですよ、駅を下りて、徒歩で5分、10分ぐらいで行けるという所が・・・。どうして山梨はないんだろうねと、あればもっともっと山梨に人が呼べるのにねという話をして帰っているんですけど。莫大なお金も掛かることですし、土地の問題もありますけれども、私たちの組合サイドの希望としたら、そういうものを計画の中に入れていただければありがたいかなと思っています。

〔知事〕

そうですね。国際的な会議場、まあホールですね、造るということになるとなかなか大変は大変ですけどね。そういう何千人と集まるとなると駅もあるけど、車で今地方の場合には行く人が多いから、私が知っている限りではどこの県にも大きいのが確かにありますが、かなり郊外にある場合が多いんですけどね。いわゆる都会的な、静岡県なども含めた、あの辺は駅の近くにありますがね。浜松なんかにもありますか。この間三重県に行ったら、三重県も伊勢神宮の近くに大きいのがありましたよね。

〔参加者〕

静岡のほうが割合使いいいですよね。でも余り大き過ぎてという方もいるというんですけど、私たち見せていただいた時にすごく良かったです。

〔知事〕

静岡はいいんですよ。静岡の場合には結局県が細長くて、しかも新幹線が通っているものですから、全体で集まる時にはやっぱり新幹線を使うんですね。だからやっぱり静岡の駅前とか浜松の駅前とか、割とそういう所にそういう施設が集中していますね。そういう点はいいですよ。うまくできていますよね。山梨の場合には中央線を使うということになるかどうか。まあ全国で集まるといえば、そのうちリニアの駅でも造る時にはそういうことも考えてというようなこともあるかもしれませんね。この間、リニアの駅ができたからその時には是非ヴァンフォーレ甲府のサッカースタジアムを造ってくれと言われて・・・(笑)、まあそれも一つかもしれないと思ったりしますが、まあそういうことと合わせて考えてみたいと思います。

そちらの方はいかがですか。

〔参加者〕

私は自動車整備商工組合なんですけど、この社会状況の中で、整備売り上げというものが19年度以降年々減少してきて、なかなか今厳しい状態にあります。車の性能もよくなったので、車の整備をするということもなくなってきましたし、個人的には重量税とか自動車税の減税とか今騒がれていますよね。それで今そういうこともありますし、あと高速道路も無料化になるとETCの設置料とか、そういうものも全部うちの会社でやっているんですけど、それもなくなってくると、もう手数料収入というものも減少してきて、今ちょっとうちの組合としてはすごく厳しい状態で毎日を過ごしています。

〔知事〕

自動車整備業界も確かに厳しい、大変には大変ですよ。

〔参加者〕

やっぱり全体の状況を見ますとそういう売り上げみたいなものが年々減少してきていますね。あと後継者問題も。なかなか後継者がいないみたいで、何かいろいろ考えていかなければならない時に来ているかと思っています。

[知事]

整備工場の皆さんはそうですね。ユーザー車検なんていうのもやっぱりマイナスになりますよね。

[参加者]

そうですね。年々増えてきていますね、それも。

[知事]

まあいろいろとサイドビジネスというか、ETCを売ったりとか、あるいは保険を売ったりとか、いろんなことをやってしのいできたんですね。けども、なかなかやっぱりその限界がありますよね。そうですか。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

[参加者]

ジャーナリストの勝間和代さんという人が「まねる力」という本を出しているんですけど、新しい物をつくりだすといってもみんな気持ち的には思っているんですけど、なかなか形にならない。だからやっぱりいろんな人のいいものをまねて自分のものにするという、そういうことで活性化というのをしていたほうが、道筋としては早いんじゃないかというのを最近・・・。

[知事]

人が苦勞してつくり上げたものというのは、それなりの苦勞の上でできているわけですからね。

[参加者]

ただまねるということだけでなく、自分のものとして道筋を付けるという、そういうことが今の時代には・・・。

[知事]

そのためにはやっぱり情報を、まあいろいろな機会ですね、いろんな交流会に出たりとか。本を読むことも大事だけど本を読むだけじゃどうもやっぱりね。人と話をしないとね。交流会ですね。

[参加者]

人の所に出て行って話を聞くというのは、実際に皆さんが経験したことを話しするので、やっぱり一番・・・。

[知事]

中小企業の皆さんなんか、そういう交流会だとか、あるいはいろんな展示会に行ってみ

て、そしていい物が、いい製品があったらそこに行って、そこでやっているその企業の人にどうやってつくったんですかとか、何だかんだと聞いたりとか、そういうことは大事ですよ。それって非常に大事だと思いますよね。一から自分で工夫するというのもそれは大事なことですけれども、なかなか、誰もそんなに創意工夫の能力というのはあるわけじゃないですからね。中小企業の皆さんというのは、こういう厳しい時ですからこそ生きていくのは大変ですけれども、しかしそれだけまたアンテナも広くして、人といろいろお付き合いをする機会、そういういろんな交流会とか展示会にもできるだけ出て行って、そういう中から自分の会社の次のアイデアを是非作ってもらいたいですよね。またこういう時期こそ、景気というのはいつか回復してきますからね。その時に何かをするかということをもいつも考えていてもらいたいと思いますよね。

〔参加者〕

富士山に今年も24万人ですか。私の友達も富士山に登りまして、女性用のトイレがあったととても喜んでおりました。

〔知事〕

あその山小屋の皆さんというのは、私は立派な方々で感心するんですけども、お客さんに対するサービスということを非常に熱心に考えて、女性用の控室を造ったりとかですね、それから泊めるお客さんの数もある一定の制限をしたりとか、非常にそういうサービスを考えていますよね。だから女性が増えてきたと。女性、それから高齢の方、外国人が非常に増えてきたと言いますよね。富士山に登ったことかありますか。

〔参加者〕

私はないんですけど。(笑)

〔知事〕

それは一回登らなきゃいかんですね。(笑)

今日言っていましたけど、「富士山に登らぬばか、二度登るばか」と言って、一回は登らないと・・・

はいどうぞ。

〔参加者〕

建設業を経営しており、主人は更生保護、保護司も務めています。型枠工事協同組合と、そして中央会に入っているんですけども、もう不況で組合も存続することができないんですよ。非常に今仕事が少なくて。

〔知事〕

ご主人は黄綬褒章をお貰いになって、黄綬褒章というのはこの道一筋に事業をやった方がお貰いになると思うんですが、それでその上に保護司をおやりになり、それから更正保護施設の山梨以徳会と言いましたっけ、あれの経営も一生懸命おやりになって、

まあ本当に素晴らしいと思いますね。

保護司の関係は第二表彰でしたっけね。素晴らしいことだと思います。

仕事がね。そうですね。型枠というとやっぱり主として建築でしょうかね。

〔参加者〕

そうですね。なかなか仕事がないもので、今は長野とか東京とか・・・。とりあえず仕事がないければ、80人ぐらいの従業員がおりますので、仕事をまわさないとみんな生活できないからということで・・・、はい。それを刑務所から出てきた人たちを就労させるなんて、とんでもない話ですよ、普通の人も使えないのに。

〔知事〕

建設関係の仕事というのはずっと減ってきて、国のほうも毎年3%ずつ公共工事をカットしていますから、県もどうしてもそうせざるを得ないんですけども、今年はこの景気対策で公共事業関係も増えてきまして、昨年に対して20%ぐらい増に最終的になると思うんですよ。まだ設計だとか用地問題とかがあって本格的に仕事が出ていませんけど、これからいろいろ出てくるだろうとは思いますがね。今年はその意味ではいいと思えますけれども、しかし長い目で見てもなかなかやっぱり日本の建設というのもピークを超えてきていますので、難しいなという感じはして、そこは建築ですから公共事業はともかくとしても、民間の建築が動かないことにはね・・・。

〔参加者〕

知事さんに期待しております。(笑)

〔知事〕

箱物も追々出てくると思います。

〔司会者〕

お話は尽きませんが、予定の1時間を大分経過しておりますので、知事のほうから今日の感想を・・・。

〔知事〕

そうですね。いや本当にそれぞれ皆様方切実なお話とか、貴重なお話を聞かせていただきましてありがとうございます。皆さん方のお話、我々もそういう点は問題意識として持っているようなお話が大体ですけども、改めて今日ご指摘があったようなことをこれからも一生懸命努力をしていきたいというふうに思っております。またこれからもいろいろお気付きの点がありましたら、遠慮なくいろんな形でおっしゃっていただければありがたいというふうに思います。厳しい時代ですけども、是非一つ女性の力ががんばっていただきたいと思います。必ず明るい未来が山梨県にはありますので、この苦しい時期をがんばっていただきたいと思います。そして回りの人たちにも是非がんばるように、皆さんからおっしゃっていただきたいと思いますというふうに思います。

今日はどうも皆さんありがとうございました。

[司会者]

以上をもちまして、『ひざづめ談議』を終了します。ありがとうございました。